



WBC AMATEUR MUAYTHAI

RULES & REGULATIONS

REVISED APRIL 01st 2022



1) 階級

Age	シニア		U23	
性別	男性	女性	男性	女性
体重(KG)	45	45	45	45
	48	48	48	48
	51	51	51	51
	54	54	54	54
	57	57	57	57
	60	60	60	60
	63.5	63.5	63.5	63.5
	67	67	67	67
	71	71	71	71
	75	75	75	75
	81	75 +	81	75 +
	91		91	
	91 +		91 +	

各階級の最高体重となります。

2) 年齢

	最低年齢	最高年齢
シニア	17	40
U23	18	23

試合当日の年齢

3) ラウンドに関して

	分数	ラウンド数	インターバル
シニア	3	3	1分
U23	3	3	1分

4) メディカル書類（WBCムエタイ・メディカル申告書）

選手は、WBCムエタイ・メディカル申告書に署名をせずに試合をすることはできない。

WBCムエタイ・メディカル申告書には指定された医師の署名が必要。このメディカル申告書に規定される、選手の体調が良好であり、選手の試合能力に影響を与える可能性のある怪我、感染、または障害に苦しんでいないことを示すものであり、海外での試合の場合は出国前に英語で医師により記入する必要がある。

5) メディカルチェックと計量

計量とメディカルチェックは下記の日時に実施される。

- ・ 公式計量：試合登録時もしくは試合日の1日前
- ・ 試合日計量：試合日の朝

試合は、当日計量終了後3時間以降に開始するものとする。もし、何らかの理由で、計量終了後3時間以内での試合開始を希望する場合は、WBCムエタイアマチュア委員会は、メディカルチームに相談した後、開始時間が参加する選手に害を及ぼさないと判断された場合のみ、3時間以内でも試合開始を許可することができる。

メディカルチェック

選手は試合日計量時に、担当医師によって身体状態が試合に適したものとして診断結果を得なければならない。

計量

すべての階級の選手は、公式の計量時にメディカルおよび体重チェックを終了する必要がある。選手は、各公式計量で承認された階級規定体重でのみ試合をすることができる。

選手は、試合日は毎朝、実際の体重が階級の最大体重値を超えないように計量を行わなければならない。

着衣に関しては、適切な下着を着用し、試合に備えて完全に準備された状態で計量を終了する必要がある（たとえば足の爪など）。

選手の最終的な計量結果は、毎日1回公式の計量時の体重測定時に記録された体重とする。

体重計は電子型を推奨する。重量は kg またはポンドとする。

6) アンチ・ドーピング

18 歳以上の選手は、WBCムエタイ・アンチドーピング同意書に署名する必要がある。18 歳未満の選手は、選手の両親および/または法定後見人の追加署名も必要。

罰則

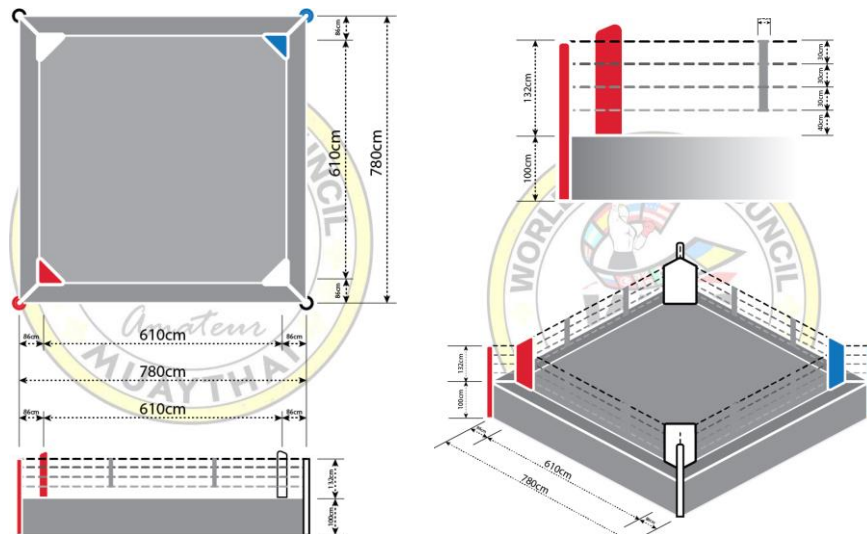
この禁止事項に違反する選手または役員は、WBCムエタイによる失格または資格停止の責任を負う。

禁止薬物

禁止薬物を服用している選手または関係者は、罰則の対象となる。また、WBCムエタイは、WBCムエタイメディカル委員会の勧告に基づいて追加の物質を禁止する場合がある。

7) 使用リング

すべての試合において、リングは以下の要件に適合しなければならない（下の図を参照）。



サイズ

最小サイズは 4.9m 四方、最大サイズはロープ内で 6.1m 四方。

リングは、地上から 0.90m 以上、1.20m 以下でなければならない。

リングの床面とコーナーパッド

床は安全に構築され、水平で、障害物となる突起などがなく、ロープの線の外側に少なくとも 85cm のスペースが必要。

また、四隅の支柱の内部は選手の怪我を防ぐために十分にコーナーパッドを備えなければならない。コーナーパッド/ポストは、以下のように配置する必要がある。

- ・ 赤-スーパーバイザーのテーブルの左側近くに位置する
- ・ 白-スーパーバイザーのテーブルの左端遠くに位置する



- ・ 青-スーパーバイザーのテーブルの右端遠くに位置する
- ・ 白-スーパーバイザーのテーブルの右端近くに位置する

リング床のマットは、1.5cm 以上 2cm 以下の厚さのパッド（フェルト、ゴム、または同等の弾性を持つ適切で承認された材料）で覆われていなければならない。

キャンバスは、パッドの上に伸ばして固定し、パッドとキャンバスの両方がリングの床面全体を覆うようにする。

ロープは最小 3 cm、最大 5cm の太さのロープを 4 本使用し、床からの高さは 40cm、70 cm、100 cm、および 130 cm（15.7 インチ、27.5 インチ、39.25 インチ、51.25 インチ）。

ロープは柔らかいまたは滑らかな材料で覆われていなければならない。ロープは、幅 3~4 cm の 2 枚のきめの細かい帆布で、等間隔に両側で結合する。

ターンバックルは、厚さ 2cm 以上のフォームで覆われ、ベルクロカバーまたはテープでしっかりと固定されている必要がある。

8) リング周りに用意するもの

- ・ 3セットの階段：選手が使用するために赤、青コーナーに 1 セットずつ、レフリーと医師が使用するためにニュートラルコーナーに 1 セット。
- ・ 6 椅子：セコンド用に赤、青コーナー 2 脚ずつ。選手用の 2 脚。
- ・ 2 つの浅いトレイ：赤、青コーナーに 1 つ。
- ・ 2 つのモップ：赤、青コーナーに 1 つ。
- ・ 役員および試合スタッフ用の机と椅子（3 人のジャッジ、タイムキーパー、メディカルスタッフ）
- ・ レフリーとメディカルスタッフのためのメディカル用グローブ。
- ・ ゴングまたはベル。
- ・ ストップウォッチ。
- ・ 担架 1 台、または完全なメディカルチームと救急車へのアクセス

9) 選手の装備

グローブ：

大会の主催者は、事前に使用するグローブに関して WBC ムエタイの承認を得る必要があり、選手は WBC ムエタイ承認のグローブのみを使用できる。

使用グローブは 10 オンス（284 グラム）。

そのうち革部分の重量は総重量の半分以上を超えてはならず、パッドの重量は総重量の半分以上でなければならない。グローブの詰め物は、ずれたり壊れたりしてはならない。

試合ごと選手は、同じメーカーのグローブを着用する必要があり、赤と青色の状態の良いグローブのみ使用可能。

バンテージ

5m 以下で幅が 5 cm を超えない柔らかい布、または片手に 5 m 以下の「マジックテープ式」バンテージを使用する。他の種類のバンテージは使用不可。

テープバンテージとしてのゴムや絆創膏など、あらゆる種類のテープの使用は固く禁じられている。バンテージを固定するために、長さ 7.5cm、幅 2.5cm のテープを上手首に 1 巻使用することは可能。

ヘッドギア、シンガード、エルボーガード

WBC ムエタイ承認されたヘッドギア、シンガード、エルボーガードの着用は必須であり、主催者によって提供されるものとする。



ヘッドギア

WBCムエタイ仕様に準拠し、チークプロテクター、チンガード、フェイスシールドの無いタイプとする。選手は、リングに入る際はヘッドギアなしで入り、ワイクルーを行い、選手同士の握手が完了した後にヘッドギアを装着する。また、試合終了した後、結果が発表される前にヘッドギアはすぐに外す。

スーパーバイザーまたはレフリーの監督下でない限り、試合中にヘッドギアを脱着することは許されない。

シンガードとエルボーガード

布製とする。テーピングが必要な場合はチェックを受ける必要がある。

ボディプロテクター

U23レベルで試合するすべての選手には、赤、青のボディプロテクターの使用が義務付けられている。

区分	ボディプロテクター
シニア	無し
U23	有り

マウスピース

すべての選手はフィットしているマウスピースを着用する必要がある。試合中に選手が意図的にマウスピースを外すことは禁じられており、その場合、選手は警告、または失格となる。試合中にマウスピースが落ちてしまった場合は、レフリーの指示に従う。

足首の保護

足首の保護（布製のアンクレット、テープなど）を着用することは不可。

ファールカップ

すべての選手（女性も含む）が各自のファールカップの着用は必須。男性は、金属製のファールカップを着用。女性はポリ性またはフォームのファールカップを着用。

チェストガード

女性のチェストガードの着用は必須。

<服装>

ショーツ

ムエタイショーツはすべての試合で着用する必要がある。

シャツ

男性、女性選手共、コーナーの色に応じて赤、青のタンクトップもしくはTシャツを着用する必要がある。シャツはショーツ内に入れる。

※ 禁止されている服装試合中は他の物を着用することはできない。

モンコン&プラジアッド

選手は、ワイクルー中に敬意を表するために、神聖なモンコン（Mong Kon）を着用する必要がある。お守りまたはチャームを備えた Krueng-Wrang（Prajiad）は、上腕、上腕二頭筋、または腰の周りに巻くことは可能だが、長さが5cmを超える場合、または試合中落ちた場合は、プラジアッドの取り外しを要求することができる。

髪の毛

髪の毛は顔を覆い隠さない、また動きの妨げを防ぐために長い場合は結ぶ（ポニーテール、編みこみなど）もしくはヘッドギア内にヘアネットで固定する必要がある。ヘアクリップの使用は不可。

ヘッド&ボディカバー

宗教上の理由により、ヘッド&ボディカバーを選手が着用する場合は以下の通りとする。

- ・ 黒または白の Resort On デザインのようなフルスポーツヒジャブ



- ・ 黒または白の生地のボディスーツ（ツーピース、タイツ、上半身）
- ・ 大会への参加に使用できるのは、WBCムエタイが承認した服装のみ

髭

顔のあごひげや口ひげは許可されていない。選手はきれいに髭を剃っている必要がある。

ヴァセリンなど

カットのリスクを減らす目的でのみ、適度な量のワセリンを顔に塗ることができる。

体の他の部分へのワセリン、タイオイル、または相手に有害または不快を与える可能性のある製品の使用は禁止。

装備と服装違反

レフリーは、装備または服装が上記の基準に適合しない選手を試合から除外するものとする。

バンテージ及びグローブチェック

バンテージはレフェリーもしくはWBCムエタイのスーパーバイザーによりチェックを受ける必要がある。グローブチェック後にスーパーバイザーは、装着されているグローブの手首にテープを貼って署名し、選手がリングに入るまでそのままの状態が守られていることを確認する必要がある。

10) 試合オーダー（抽選）

試合の抽選を行う場合は、すべての計量とメディカルが行われた後に行う。

試合数

1日あたり最大1つの試合にのみ試合することができる。但し特別な状況では、地域のWBCムエタイの代表者またはスーパーバイザーは、選手が1日に複数の試合に出場することを許可する権限を持っている。

その際には、試合間隔は最低3時間以上あける必要がある。いかなる時も1日あたり3試合を超えてはならない。

11) セカンド

セカンドの人数

各選手は最低1名、最大2名のセカンドを付けることができるが、最低1名のセカンドがいない場合は、試合をすることはできない。

セカンドの順守事項

セカンドは以下の規則を遵守するものとする。

<アクティブラウンド中>

- ・ セカンドは、リングの床から離れて座ったままでなければならない。ラウンドが始まる前に、リング床からすべての備品（タオル、バケツ、ウォーターボトルなど）をリング上から撤去する必要がある。

<カウント中、警告中、またはタイムアウト中>

- ・ セカンドは選手にアドバイスをしてはならない。

<ラウンド間の休憩・インターバル中>

- ・ リングのエプロンにはセカンドは2名のみで、リングに入ることができるのは1セカンドのみ。
- ・ ロープの外側にいるセカンドは、ロープの間に体を入れることはできず、選手の世話をすることは上に手を伸ばさなければならない。
- ・ セカンドは、選手がリングの中央を向き、コーナーに背中を向かせなければならない。インターバル中にウォーターボトルやスプレーボトルを使用して、選手に適度な量の水をスプレーすることは許可されている。

<試合時>

- ・ セカンドは選手がこれ以上の試合続行は困難であると考えた場合、レフリーがカウントしている場合を除い



て、タオルをリングに投げて試合の終了を知らせることができる。

- ・ セCONDは選手に悪いアドバイス、悪い励まし、または攻撃的な身体的接触を与えてはならない。
- ・ 試合進行中に観客を煽るような行為を行ったセカンドは、失格となる。
- ・ セカンドがルールに違反した場合、警告または失格となる可能性がある。その際、選手が警告、または失格となる場合がある。レフリーがセカンドを失格にした場合、別のセカンドに置き換えることはできず、残りの試合をサポートすることはできない。

コーナーに必要なもの

タオル、ウォーターボトル、バケツ、水。

これらの物は、WBCムエタイのドーピング防止方針や、細菌ウイルス性疾患の蔓延や汚染を防ぐために他の選手のものを貸与することはできない。

ルールミーティング

指名されたリングオフィシャルとWBCムエタイのスーパーバイザーは、チーフセカンドに対し以前にルールの説明を行う。

1 2) 試合の開始

試合への参加選手は、リングに入る際以下の物を装着していることとする。

- ・ グローブ
- ・ エルボーガード（肘当て）
- ・ シンガード（脛あて）
- ・ ファールカップ
- ・ チェストガード（胴当て）
- ・ ボディプロテクター（使用する場合）

モンコン、ヘッドギア、マウスピースは、セカンドによって保持されるものとする。

選手は、ロープの上か、2本目と3本目のロープの間、または3本目と4本目のロープの間にリングに入り、リングに入った後、モンコンを頭に着用する。選手は、各コーナーで、レフリーのチェックを受ける。

ワイクルー

レフリーは装備の確認後、ワイクルーの開始を合図する。

握手

試合の開始前と終了後、スポーツで友好的な競争のしるしとして握手または「ワイ」をしなければならない。

1 3) ワイクルー

すべての選手はムエタイの習慣に従って、最初のラウンドの前に伝統的なムエタイの「ワイクルー」の儀式を行わなければならない。

装備

神聖なモンコンを身に着ける

基本動作

最低でも4隅を回り、キャンバスに座り、座位姿勢で3回お辞儀をする必要がある。開始姿勢、座位姿勢、および立位姿勢からなる適切なワイクルーを実行することが推奨される。

音楽伝統的なムエタイ楽器（ジャワパイプ、小さなシンバル、2つのドラム）

伝統的なワイクルーの音楽を流す必要がある。ライブバンドが利用できない場合は、録音から再生されたムエタ



イ音楽を使用することができる。

14) レフェリー

服装要件

かかとの平らな靴底の靴を履く

手術用グローブを着用することを推奨する。

眼鏡、宝石、ベルト、帽子などのアクセサリは禁止。

最重要事項

選手の「保護」は、レフリーの最も重要な事項

レフェリーの任務

- 3つのコマンドはタイ語を使用する。
選手にアクションの停止を指示する場合は「YUT」(Stop)。
クリンチの停止を指示する場合は「YAK」(ブレイク)。
試合続行を指示する場合は「CHOK」(ボックス)。
両選手は「YUT」、「YAK」のコマンド時は即座に一步下がり、レフェリーの「CHOK」により試合を続行する。
- ルールとフェアプレーが厳守されていることを確認する。
- 選手のグローブと服装を確認する。
- 常に試合の管理を維持する。
- 一方の選手が過度で不必要な攻撃を受けることを防ぐ。
- ファール時は的確に規則違反を選手に対し、視覚的に説明しなければならない。
- 各ラウンド終了時は「YUT」でラウンドの終了を命じ、それぞれ選手をコーナーに行かせる。
- 試合終了時(もしくは各ラウンド終了時)に、ジャッジペーパーを集めて確認する。レフリーは、ジャッジペーパー確認した後、スーパーバイザー、またはスーパーバイザー不在時はアナウンサーに提示しなければならない。
- レフリーが試合を中止した場合、アナウンサーが状況を知らせることができるよう、レフリーは最初に試合中止の理由をスーパーバイザーに通知しなければならない。
- レフリーは、リングアナウンサーにより結果発表が行われるまで、選手の手を上げるなどして勝者を示してはならない。試合の勝者が発表後、レフリーは勝者の手を上げるものとする。

レフリーの権限

- 攻撃が一方的すぎると思われる場合は、いつでも試合を終了する。
- 選手の1人が怪我をしたためにレフリーが続行しないと判断した場合は、試合を終了する。
- 選手が真剣に競技をしていないと思われる場合は、いつでも試合を終了出来る。そのような場合、彼らは一方または両方の選手を失格にすることがする。
- ファウルが生じた際に、ファウルを行った選手に規則を確実に順守するように警告を発する、減点や失格とする。
- レフリーの命令にすぐに従わなかった、またはレフリーに対して攻撃的態度を取った選手を失格にする。
- セカンドがレフリーの命令に従わない場合、規則に違反したセカンドおよび/または選手自身を失格とする。
- 事前の警告の有無にかかわらず、重大なファウルを犯したことで選手を失格とする。
- ノックダウンが発生した場合、選手の対戦相手が故意にニュートラルコーナーを離れた場合、または試合進行の妨げを行った場合は、カウントを一時停止する。



15) ジャッジ

ジャッジ義務

- ・ 各ジャッジは、2人の選手を独自に評価し、規則に従って勝者を決定するものとする。
- ・ ジャッジは、試合中、選手や他のジャッジ、またはレフリー以外の人と話をしてはならないが、必要に応じて、ラウンドの終わりに、レフリーに次のような事を通知することができる。
(セカンドの不正行為、ロープの緩みなど、レフリーが気づいていないように感じた場合)
- ・ 各選手に与えられるポイント数は、各ラウンドの終了直後に、スコアリングペーパーに記入するものとする。
- ・ 試合の終了時に、ジャッジはポイントを合計し、勝者を指名し、スコアリングペーパーに署名し、スコアカードをレフリーに提出するものとする。ジャッジは、試合結果が発表されるまで席を離れてはならない。

16) スコアリングシステム

ムエタイスキルにおけるスコアリング

ムエタイスキルは、相手に与えるダメージを与えるパンチ、蹴り、膝、または肘打ち。

相手によって防御されることなく、これらのムエタイの武器による強い攻撃を当てた際にポイントとなる。

ムエタイのターゲット

ムエタイの攻撃対象は相手の股間を除く体のあらゆる部分を意味する。

ポイントの対象とならないターゲット

グローブ、前腕、足の裏、およびすねは、十分な力で攻撃を受けない限り、ポイントとなるターゲットではない。

(たとえば、ブロックしている相手のグローブに対するハイキックにより明らかにハイキックを受けた選手に強いダメージがあり、バランスを崩した場合)。

違法なターゲット

鼠径部は得点ターゲットではなく、ファウルと見なされる場合がある。

10ポイント マスト システム

各ラウンドごとに採点され、少なくとも1人の選手に10ポイントが与えられる。

ポイントを獲得する条件

- ・ 相手よりもムエタイスキルを利用した強い攻撃を相手に与える。
- ・ 相手よりも攻撃を出している。
- ・ 相手の攻撃を回避し、攻撃を受けていない。
- ・ 試合を支配している。

ポイントとならない攻撃

- ・ ムエタイのスキルが不足している打撃。
- ・ 対戦相手の前腕/グローブまたはすね/足によって効果的にブロックされる攻撃。
- ・ 力の欠如な攻撃。
- ・ 攻撃せずに相手を投げる。
- ・ ルールのいずれかを侵害している時の攻撃。

各ラウンドのスコア

各ラウンドの終わりに、優れた(ムエタイでより熟練した)選手に10ポイントが与えられ、相手はそれに比例して少なくなる(それぞれ9-8-7)。

- ・ 優劣が付けられない場合は双方の選手に10ポイントが付与される。



- ・ わずかな差でラウンドに勝った選手には10ポイントが与えられ、相手には9ポイントが与えられる。
- ・ ラウンドで大きな差をつけて勝った選手には10ポイントが与えられ、相手には8ポイントが与えられる。
- ・ 完全支配でラウンドに勝った選手には10ポイントが与えられ、相手には7ポイントが与えられる。
- ・ ジャッジが警告に同意した場合、選手は警告を受けるたびに合計ポイント数が1ポイント減点される。

減点

レフリーにより、選手が警告・減点を受けた場合、ジャッジがレフリーに同意した場合、警告を受けた選手は合計ポイントから1ポイント減点される。

試合の終了

トーナメントの場合、すべての試合で勝者を決定する必要がある。試合の終了時に、両選手の合計スコアが等しい場合、ジャッジは、下記のステップを適用して勝者を決定するものとする。

- ・ 相手よりアグレッシブにムエタイ技術を使い攻撃をした選手。
- ・ 相手より優れたディフェンスにより相手からの攻撃を回避した選手。
- ・ 相手よりムエタイスタイルが良い選手。
- ・ 相手よりもルールの違反が少ない選手。

16) 試合結果

判定勝利

試合終了時に、過半数のジャッジからより得点勝ちを与えられた選手が勝者として宣言される。

両方の選手が同時に負傷した場合、同時にノックアウトされた場合などの理由により試合を続行できない場合、ジャッジは各選手が終了するまでに獲得したポイントの合計でより多くのポイントを獲得した選手が勝者として宣言される。

レフリーストップ（TKO）での勝利

片方の選手が、過度の激しい攻撃を受けている場合、レフリーにより試合は中止され、相手選手の勝者を宣言する。

- ・ 片方の選手が相手選手の攻撃による負傷で継続するのに適さない場合、またはその他の身体的理由（関節脱臼、嘔吐、大量の鼻血など）で攻撃が出来ない状態になった場合、試合は止められ、相手選手の勝者を宣言する。
- ・ この決定を下す権利はレフリーにあり、レフリーはニュートラルコーナーで医師に相談することができる。その際には、医師とレフリーのみが立ち合いリング内にセコンドを入れてはならない。
- ・ トーナメントの決勝戦の最終ラウンドで負傷が発生した場合、勝者はそれまでのすべてのラウンドで得られた過半数のポイントのみに基づいて決定される。

医師は、レフリーからの直接の指示の下該当選手のみの診察をするものとする。レフリーはタイムキーパーにタイムの停止を指示しなければならない。医師が試合の中止を勧めた場合、レフリーはすぐに試合を中止し、TKOによって対戦相手を勝者と宣言する。

頭部外傷

選手が激しい頭の打撃を受け試合を継続が不可能となる。

身体の怪我

選手が頭以外の体の部分に激しい攻撃を受け試合を継続が不可能となる。



カウントの回数による制限

レフリーは、1試合内に所定のカウント制限に達したときに試合を停止する。

シニア&U23：同じラウンドで3カウント、または試合全体で4カウント。

ローブローによる勝利

選手が偶然のローブローで試合を続行できない場合、レフリーは最大5分間試合を一時停止し、攻撃を受けた選手が休憩できるようにする。選手が5分の休憩後に試合の再開を拒否した場合、対戦相手は「勝者」と宣言される。

KO勝ち

選手が「ダウン」し、10カウント内で試合を再開できない場合

選手の対戦相手は、ノックアウトによって勝者と宣言されるものとする。

戦意消失による勝利

次の場合に勝者として宣言される。

- ・ 選手はがラウンド間のインターバルの後、コーナーを離れない場合。
- ・ 選手は、カウントを受けた後に試合続行の意志がない場合。
- ・ セCONDが試合を止めた場合。

失格による勝利

選手が失格となった場合、相手選手は勝者として宣言されるものとする。

両方の選手が失格となった場合、決定はそれに応じて発表されるものとする。

失格となった選手は、賞、メダル、トロフィーなどを獲得する権利を持たないものとする。

不戦勝

片方の選手が試合を行うべくリングインしているが、氏名が呼ばれたのち2分以内に対戦相手が現れない場合レフリーは最初の選手が勝者であることを宣言するものとする。

ノーコンテスト

選手及びレフリーのコントロール外で起こった出来事（リングの損傷、照明の故障、異常な気象条件など）が生じ、最大10分が経過した後、解決しない場合試合は「ノーコンテスト」と宣言されるものとする。

異議申し立て

異議申し立ては結果が発表されてから1時間以内、または決勝戦の場合は授与される前30分以内に、チームのマネージャーが提出する必要がある。

異議申し立ては書面で行われ、WBCムエタイのスーパーバイザーに渡され、結果の認証は任命された審査委員会によって行われる。

17) ファウル

ファウルの扱い

ファウルを犯した選手は、レフリーの裁量により、警告なしに警告、警告、または失格とすることができる。

注意

注意とは、それほど深刻ではない規則違反時にレフリーが選手に与える警告。そうすることで、レフリーは必ずしも試合を中止する必要は無いが、選手に注意の内容がわかりやすく理解できるように説明する必要がある。

もし同じ選手に同じ注意が1試合内に3回与えられた場合は警告とする。

また、同一選手が1試合中にさまざまな種類のファウルをした場合は、レフリーはスポーツマンシップに反する



行為とし警告とする。

警告

選手が規則の繰り返しまたは重大なファウルを犯した場合、レフリーは試合を中止し、違反を明確に説明し、警告を通知し、次に選手と各ジャッジを指して警告が出されたことを知らせ、警告を出した後、レフリーは選手に試合再開を命じなければならない。

重大な危険を伴うファウルについては、レフリーは直ちに選手を失格にすることを選択することができる。

ファウルの種類（選手が意図的に以下のファウルを犯した場合）

- ・ 相手を噛んだり、頭突きしたり、唾を吐いたりする。
- ・ 親指で相手の目を押す。
- ・ 口と鼻を覆うことによって、意図的に相手を窒息させたり窒息させたりする。
- ・ 装備を意図的に取り外したり、緩めたり、移動したりする。
- ・ 意図的にマウスピースを排出または除去する。
- ・ 対戦相手にダメージを与えることを意図し、ムエタイ以外のテクニックを使用した場合。
- ・ ムエタイスキルを使用せずに相手を転ばせる。
- ・ 腰を使って相手を投げる。
- ・ 対戦相手にタックルをする。
- ・ ふくらはぎ、足首、または足のかかとを使用して、相手の足を引っ掛けたり固定したりする。
- ・ 体で相手を持ち上げる。
- ・ 腕、脚、頭/首、または背中の相手の関節をロック/過度に伸ばす。
- ・ ロープを持っているとき、またはロープを不当に使用しての打撃。
- ・ 床に横たわっている相手に倒れる。
- ・ 床に倒れている、または起き上がってくる状態の相手を攻撃する。
- ・ 足以外の体の部分が床に触れている状態で打つ。
- ・ 対戦相手がリングに再び入ることを妨害する。
- ・ 相手からの攻撃を避けるために意図的に転ぶ。
- ・ 相手の股間を打つ。
- ・ 対戦相手の足をつかみ、3ステップ以上前進する。
- ・ ラウンド終了後に相手を攻撃する。
- ・ レフリーの「YUT」（「Stop」）または「YAK」（「Break」）のコマンドに従わず1歩下がらない。
- ・ レフリーが「YUT」または「YAK」のコマンドに続いて「CHOK」を命じる前に、相手を攻撃する。
- ・ 試合中の相手選手もしくはレフェリーに対する攻撃的または不快な発言。（セコンドも該当）
- ・ レフリーに対して攻撃的または攻撃的に行動する。
- ・ ウォーターボトルまたはスプレーボトル以外の方法で選手に水をかける。
- ・ インターバル中の過剰な水を使用によりラウンドの開始が遅れる。
- ・ WBCムエタイアンチドーピングポリシーで認められている禁止物質の使用。

レフリーがジャッジに相談するケース

レフリーがファウルの有無を確認するために、ジャッジに相談する、スーパーバイザーの助言を得る、またはインスタントリプレイを使用することができる。



18) ノックダウン

「ノックダウン」の定義

- ・ 1 攻撃または連続的な攻撃の結果として、選手が足以外の体の一部で床に触れ、立ち上がりが困難な場合。
- ・ 1 攻撃または連続的な攻撃の結果として、選手がロープに無力的にぶら下がっている場合。
- ・ 1 攻撃または連続的な攻撃の結果として、選手がロープの外側または部分的に外側にいて立ち上がりが困難な場合
- ・ 激しい攻撃の後、選手は半意識状態にあり、レフリーの見解ではラウンドを続けることができない場合。

カウント

ノックダウンの場合、レフリーは直ちに「YUT」STOP を命じ、レフリーはタイ語で1から10まで声を出して数えなければならない：

	タイ語	
1	Nueng	ヌン
2	Song	ソン
3	Sam	サン
4	Sii	シー
5	Ha	ハー
6	Hook	HOOK
7	Jet	ジェット
8	Baed	バアー
9	Gouw	ガーオ
10	Sip	シップ

カウントの開始

数字「NUENG」(1) をカウントする前に、選手が倒れてから1秒が経過している必要がある。

タイミングと合図

レフリーは、カウントする際に人差し指から始めて、ノックダウンされた選手がカウントを認識できるように、手でカウントの数字を示すものとする。

ジャッジ

ジャッジは、レフリーが選手にカウントを与えたときに、スコアシートに「KD」(ノックダウン) を記録しなければならない。選手が頭を打ったためにノックダウンされたとみなされた場合、ジャッジはスコアシートに「KD + H」(ノックダウン+ヘッド頭) と入力しなければならない。

対戦相手の責任

選手がノックダウンされた場合、対戦相手はレフリーが指定したニュートラルコーナーにすぐに行き、リングの中央を向いて、腕を横にして待つ必要がある。レフリーの命令で相手がニュートラルコーナーに行かなかった場合、レフリーは相手がそうするまでカウントを停止しなければならない。その後、カウントは中断された場所で続行される。

対戦相手は、ノックダウンされた選手が起き上がり、レフリーがコマンド「CHOK」で試合を再開した後にのみ、選手に対して続行することができる。

8カウント

たとえ選手がそれ以前に続行する準備ができていても、レフリーが「BAED」(8) のカウントに達するまでカウントを続けなければならない。

ノックダウンされた選手が「BAED」(8) のカウントで続行できない場合、レフリーは「SIB」(10) のカウントま



で継続するものとする。「SIB」(10)のカウント終了後試合は終了し、「ノックアウト」と決定される。

ラウンド終了時のカウント

ラウンド終了時に選手がノックダウンされた場合、レフリーはカウントを継続するものとする。レフリーが「SIP」(10)にカウントした場合、選手はノックアウト(KO)によって試合に負けたと見なされるものとする。選手が「BAED」(8)のカウントで回復した場合、レフリーは直ちにコマンド「CHOK」を使用しなければならない。

2度のダウンの場合

選手が1回目のダウン後、攻撃無しでダウンした場合、レフリーは「BAED」(8)からカウントを継続しなければならない。

両方の選手が同時にノックダウンした場合

両方の選手が同時にノックダウンされた場合、一方がまだノックダウンされていれば、カウントが続行される。両方の選手が「BAED」(8)までノックダウンされたままの場合、試合は中止され、ノックダウンの時点までのポイントに従って決定が下される。

選手が試合再開できない場合

インターバル終了直後に試合を再開できなかった選手、または攻撃でノックダウンしたときに10カウント以内に再開できなかった選手は負けとする。

リング外に落ちた選手の場合

一方または両方の選手がリング外に落ちた場合、レフリーは直ちに「YUT」STOPを命じ、カウントを開始しなければならない。選手は、「Yee-Sip」(20)のカウント内で、自力でリングに戻る必要がある。

レフリーは、選手がいかなる方法でも支援または妨害をされていないことを確認する必要がある。もし、支援や妨害が発生した場合、レフリーは直ちにカウントを停止し、違反者に警告し、必要な措置が取られたのを確認後カウントを継続する必要がある。

「Yee-Sip」(20)のカウント内に選手がリングに戻るができない場合、レフリーが試合を停止することによってリング内の選手が勝者として宣言される。

両方の選手が「Yee-Sip」(20)のフルカウントでリングの外に留まっている場合、試合は中止され、それまでまでのポイントに従って決定が下される。

19) 医師と手順

医師の義務

ムエタイスポーツにおいて十分な訓練を受けた医師でなければならない。

医師は選手の健康状態をチェックし、計量前に選手が試合に適していることを証明するものとする。

試合中ドクターはスーパーバイザーに最も近いニュートラルコーナー近くに座る。ドクターは試合中ずっとリングサイドで最後の試合に参加した2人の選手を検査するまでこの場所を離れてはならない。

医師は、ラウンド中でもレフリーに指示に従い選手の診察を行い、レフリーに助言を与えるものとする。医師は、レフリーからの指示がない限り、ラウンド間やインターバル中に選手を検査してはならない。

選手が意識を失った場合、医師が特別な支援を必要としない限り、レフリーとドクターのみがリングに入る。

試合中頭を打ち意識を失った選手、頭を強く打った選手、無防備または続行できなくなった選手は、試合後も注意を払うものとし、医師が選手とセカンドにアフターケアまたはフォローアップ検査を勧めることとする。

医師は試合後に各選手を確認する必要がある。



20) 頭部への攻撃（KO/TKO）を受けた時の処置

休養期間：頭部への攻撃によってKOまたはTKOが発生した場合、選手は規定された休養期間を設けるものとする。

- ・ 試合で頭部への攻撃によりKO、頭部への攻撃で反撃できず、試合続行が危険するレフェリーの判断によりTKOとコールされた選手は、最低30日間試合への参加及びスパーリングを行ってはいけない。
- ・ 90日の間に2回のKOまたはTKO：頭部への攻撃によりKO、頭部への攻撃で反撃できず、試合続行が危険するレフェリーの判断によりTKOとコールされた選手は、2回目のKOまたはTKOより最低90日間試合への参加及びスパーリングを行ってはいけない。
- ・ 12カ月の間に3回のKOまたはTKO：頭部への攻撃によりKO、頭部への攻撃で反撃できず、試合続行が危険するレフェリーの判断によりTKOとコールされた選手は、3回目のKOまたはTKOより最低12カ月試合への参加及びスパーリングを行ってはいけない。

休養の必要性

頭部に多くの打撃を与えて負けた場合、または試合中数回ダウンした選手は、試合時の担当医師の判断で試合日から最低でも90日間、試合へ及びスパーリングへの参加を許可されない場合がある。

選手は、上記にある規定された休養期間後に試合再開する前に、メディカル機関にて練習再開可能か否かの検査を受けなければならない。可能であれば、脳波（EEG）、およびコンピューター断層撮影（CT）検査を受ける。検査の結果と試合再開の許可は、メディカル記録に記入されこれに従わなければならない。